

② 入試区分

人間生活学研究科博士前期課程（Ⅲ期）

③ 出題科目

小論文

④ 出題の意図

認知心理学における基本的な概念である記憶について、その種類及びその内容を体系的に理解しているかどうかを問う問題を出題した。

受験番号	氏名

2025年度Ⅲ期 人間生活学研究科心理学専攻（臨床心理学コース）博士前期課程
入学試験問題（専門科目）

（4枚中1枚目）

※問題は2問あります。2問とも解答してください。（解答用紙を含め、全部で4枚あります。）

問題1. 次の文章の①～⑮の空欄に適切な語句または人名を、2枚目の語句選択用リストから選んで解答してください。ただし、一度選択した語句は他の空欄には使えません。

- (1) 養育者が乳児に対して発する柔らかい音声、抑揚をつけた高音域の発声を(① **マザリーズ**)という。
- (2) 文部科学省は、不登校の定義を「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的背景・要因により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間(② **30**)日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者をのぞいたもの」としている。
- (3) 「人は多様な性格類型(タイプ)のいずれかに分類できる」「人は外向型と内向型のいずれかの基本的な態度が強くなりやすい」という仮説のもとで、人の性格特性を主な4つの心的機能(感覚、直観、思考、感情)に分け、8類型化した人は、(③ **ユング**)である。
- (4) 産業領域におけるメンタルヘルス対策のうち、労働の現場におけるケアを(④ **ラインによるケア**)という。
- (5) スピアマンは、知能の構造を2因子から構成されていると主張した。そのうち、あらゆる知的活動に寄与する因子を(⑤ **一般因子**)という。
- (6) 感覚統合療法において、基礎となり、もっとも重視する感覚は(⑥ **前庭感覚**)、(⑦ **固有感覚**)、触覚の3つである。
- (7) ある疾病において、「10%が死亡する」と表現した場合のほうが、「90%が生存する」と表現した場合よりも、リスクが高く感じられることを表す理論を(⑧ **フレーミング効果**)という。
- (8) 児童虐待の種類として、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、(⑨ **心理的虐待**)がある。
- (9) 認知バイアスのうち、自分の仮説を支持する証拠だけを探す傾向のことを(⑩ **確証バイアス**)という。
- (10) 正規分布とは異なり、一般に分布が偏っている場合、代表値としては中央値や(⑪ **最頻値**)、散布度では、範囲や(⑫ **四分位偏差**)を求めることになる。

受験番号	氏名

(4枚中2枚目)

(11) 心理検査を行うに当たり被検査者に対する倫理的側面への配慮は欠かせない。守秘義務があることは言うまでもなく、説明し同意を得る手続きを経ることを(13) **インフォームドコンセント**)といい、検査後に検査結果を説明することを(14) **フィードバック**)という。

(12) (15) **ウォルピ**)は、レスポナデント条件付けをベースとする系統的脱感作法を開発した。

【語句選択用リスト】

インフォームドコンセント	マザリーズ	ラポール	EAPによるケア	フレーミング効果	潜在因子
歪度	スキナー	四分位偏差	ミラーリング	ラインによるケア	視覚
セルフサービングバイアス	セルフケア	一般因子	心理的虐待	確証バイアス	ヤングケアラー
正常性バイアス	経済的虐待	聴覚	ハロー効果	社会的虐待	前庭感覚
50	ユング	平衡感覚	ジョーンズ	ウォルピ	アンカリング効果
見立て	固有感覚	40	アドラー	特殊因子	集団によるケア
					フロイト
					最頻値
					尖度

令和7年度Ⅲ期入試記述問題解答例

解答のポイント（触れてほしい点）

- ・ 太字部分のキーワードを使って次のことが説明できていること

短期記憶及び**長期記憶**に分けられること並びにそれぞれの保持時間及び容量

長期記憶は**宣言的記憶**（又は**陳述記憶**）及び**非宣言的記憶**（又は**非陳述記憶**）に分けられること

宣言的記憶には**エピソード記憶**及び**意味記憶**があること並びにそれぞれについての説明

非宣言的記憶には**手続き記憶**、**プライミング**及び**古典的条件づけ**があること並びにそれぞれの説明

感覚記憶、**ワーキングメモリ**、**顕在記憶**、**潜在記憶**、**回想記憶**、**展望記憶**などに言及してあれば内容に応じて加点する。